

2017年12月17日(日)／説教者：國分美生

説教：「それでもクリスマスはやってくる」

聖書：ゼカリヤ書9:1～10

私たちの大事なアドベントの期間であるここ10日ほどの間に、緑ヶ丘保育園、また普天間第二小学校への米軍ヘリからの落下物、そして私たちの敬愛する城間先生の召天、とあまりにもいっぺんにたくさんことが起きました。

保育園関係者や保護者の皆さんは、誹謗中傷のメール・電話に耐えなければならない状態が続いています。あったこともない人からの理不尽な攻撃を受け、様々な形の暴力にさらされています。

暴力に関して城間先生は「戦争と教会」というテーマで証言をしておられます。戦争中の「皇民化教育」の中で、キリスト教会までもが軍歌や君が代を歌い、天皇を神とあがめていたという事実。そうなった背景には、まず第一に洗脳、ということがあったということです。そして、洗脳されていく過程には暴力に対する恐怖もあった、ということも。

旧約聖書で神はイスラエルに勝利をもたらす神として描かれています。敵を力で屈服させる神は、暴力を肯定しているのでしょうか？

ゼカリヤ書9章の1節から8節は、イスラエルと敵対する諸国に神の裁きがくだされる場面です。ここでは神は暴力的に見えます。しかし続く詩の中では、暴力を否定する神の姿があります。戦争の道具である馬ではなくロバにのった王様がやってくる、武器を用いた暴力的な支配は終わる、とあるからです。ゼカリヤの預言は、神が神ご自身の偉大な力をもってイスラエルと諸国の民を共にそのご支配のもとに置き、ゆえに、もはや戦うことは必要なくなるということを告げています。そうであれば9章の前半の表現は諸国の民のおごり高ぶり、人間の力に対する過信を、神が打ち砕いたということであると理解してよいでしょう。

イエスは明らかにこのゼカリヤ書の預言を意識し、ロバに乗ってエルサレムに入場しました。それはイエスの福音がどのようなものであるかを、私たちに伝えてくれます。人間の支配する世界では、暴力によってこの社会に起こる波風を押さえつけることが平和と呼ばれる。しかし、神の国、神のご支配のもとで暴力を振るう者、力あるものは打ち砕かれる。暴力によってではなく神のご支配によって、私たちは一つにつながる。それが神の勝利であり、平和である、と。

今、重苦しい思いの中、それでもクリスマスはやってくる。神の救いの約束は成し遂げられ、希望の光が私たちの暗闇の中にお生まれになります。(國分)